

## 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 

自己点検・評価委員会
------------

(責任者名) 肥後 睦輝

(役職名) 自己点検・評価委員長

## ② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	学内の常設委員会である教務委員会が、教務課と連携しながらプログラムの履修・修得状況を把握する。その結果を自己点検・評価委員会に報告し、改善点があれば教育改革委員会を通して改善を指導する。
学修成果	「情報活用論Ⅰ」「情報活用論Ⅱ」および「保健統計学」の担当教員が、学修の成果について成績評価をおこなうとともに、学生による授業評価アンケートの結果をあわせて自己点検・自己評価をおこなう。教務委員会やデータサイエンスAIリテラシー教育部会の場で、全体としての評価と情報共有を実施する。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	各学修内容ごとに課題を提出してもらい、内容理解を確認しながら授業を進める。また、学期末には授業アンケートを実施することで、授業や課題の難易度が適切であったかどうかを自己点検する。また、在学生を対象とした学生調査および卒業時学生調査においても、数理・統計・データサイエンスに関する知識や技能などが身に付いたかどうかを調査している。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	履修した学生の感想や要望、他の学生への推奨度などについて意見を収集し、次年度の履修者向上に活用する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>常設の教務委員会が、全学における履修者数の動向を調査し、履修率の向上に向けた計画の達成度や進捗状況を把握し、データサイエンスAIリテラシー教育部会等を通して「情報活用論Ⅰ」「情報活用論Ⅱ」「保健統計学」の担当教員にフィードバックする。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和7年度からの実施であり、現時点で本プログラムを修了して社会に出た者はいない。本プログラムの修了者が卒業した後は、各学部にておこなっているリカレント教育の場や、実習訪問などの機会を利用して、教育プログラム修了者のAI・データサイエンスの活用状況について情報を得るとともに、より現場の実情に合わせたスキルを授業実践の中に取り入れる予定である。また、自治体・企業を対象とした「中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育・研究活動、教育課程の編成に関するアンケート」において、DXに向けた取り組み等の調査結果を参考とする。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	実習訪問や産学連携、地域貢献活動の際に、現場で必要とされるAI・データサイエンスのスキルや、本学への要望などについて意見を集め、よりよい教育プログラムの実践に活用する。また、地域連携推進センターが年に1回実施している、連携している企業・自治体との意見交換において、本教育プログラムの内容や手法についても意見を募集する。
教理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業内で積極的にアクティブラーニングを取り入れることで、単なるITスキルにとどまらず、AI・データサイエンスを学ぶ楽しさや、お互いにデータサイエンスに基づく議論や教え合いを推進することで、学ぶことの意義や学修への興味を理解してもらう。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること  ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	生成AIに関しては、変化のスピードが速いため、「情報活用論Ⅰ」「情報活用論Ⅱ」「保健統計学」の担当教員が最新の動向に注目して適宜内容のアップデートをおこなう。また、担当教員同士が情報共有をおこなうことで、より効率的に授業の内容や水準を維持・向上させることを目指す。